



子どもたち 先生方の笑顔のために

壁面に掲示してご活用ください

共に歩まん

令和5年11月24日発行

第20号

中信教育事務所

ご意見はこちら→  ←過去の「共に歩まん」はこちら

つな
げる

シリーズⅢ「教育課程研究協議会特集」⑤ 特別活動，生活・総合的な学習の時間

【生活】 生坂村立生坂小学校（第1学年）

単元名：ぼく、わたしのカエルビーチ

【目指す子ども像】

○一人ひとりが輝く生坂っ子

よく考える 心豊かな たくましい子ども



目指す子どもと出会うために

1. 幼児期の育ちと接続させる
2. 「やってみたい」から始まる学習活動の工夫
3. 体験活動と表現活動の時間を保障する授業づくり
4. 気づきを引き出す教師の問いかけ，受容的な声掛け

〈本時の子どもの育ち〉

学級で飼育しているカエルのために、「カエルが安心して楽しめるビーチ」をつくる子供たち。ビーチづくりに必要な材料を使って、カエルの特徴や、カエルの住む場所に着目し、カエルビーチをつくっていきます。K児は、これまでの飼育で気付いたカエルの生態を生かして、カエルが楽しく、安心できるように工夫をしました。H先生の子供がやりたいことを実現していける場の工夫、共感的な声掛けのもと、安心して活動に取り組む子供たちでした。

【特別活動】 塩尻市立檜川小中学校（第8学年）

題材名：「新児童会を組織しよう」

【目指す子ども像】

○切磋琢磨し，多様性を包み込む豊かな心を育む子ども

○自ら問いをもち，主体的に探究する子ども

○協働し，未来の自分を創造しようとする子ども



目指す子どもと出会うために

1. よりよい話し合い活動にするための，話し合う観点の整理と適切な教師の支援。
2. 自他の考えを共有し，自分の考えを練り上げ，よりよい合意形成につなげるためのICTの活用。

〈本時の子どもの育ち〉

少子化にともなう，小中合同の児童生徒会活動の再編について考え合う1時間でした。一人一人のICT端末の画面には，十字チャートが映され，優先すべき活動かどうか等が記入された電子付箋を，構造的に振り分け，話し合いが行われていきました。授業を終えても，現在行われている活動を残すべきかどうかについての話し合いは続き，自分の考えを練り上げていく姿がありました。K先生はそのやり取りの一言一言に聞き入っていました。自分ごとになっている議題だからこその姿でした。